

ササバギンラン *Cephalanthera longibracteata* Blume

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。やや山地性のラン科植物で、愛知県では個体数が少ない。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、やや細く、高さ 30~50cm になる。葉は 6~8 個が互生し、卵状披針形、長さ 7~15cm、幅 1.5~3mm、先端は鋭尖頭、基部は茎を抱き、裏面と辺縁には茎の上部と共に白色の短毛状突起がある。花期は 5~6 月、花は茎の先端部にまばらに数個つき、白色、平開せず、苞は線形、下部の 1~2 個は花序より長い。がく片は披針形、長さ 11~12mm、鋭頭、側花弁はがく片より短く、幅が広い。唇弁の基部は筒状の距となり、舷部は 3 裂し、中裂片は心形、中央内面に淡黄褐色の隆起条がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 52027, 1994-6-11)、2 豊根 (加藤等次 3161, 1993-6-8)。西：20 足助 (芹沢・水野 170, 1985-5-23)、21 下山 (芹沢 92471, 2017-6-13)。3 東栄, 4 津具, 5 稲武などにもあるという (小林 2006)。

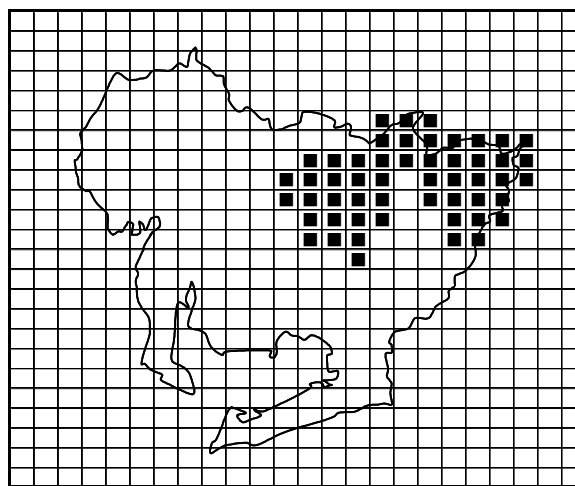
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の落葉広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

点在するがどの場所でも個体数が少なく、偶然行き当たるとい程度の頻度で生育しているだけである。森林の伐採等による自然環境の全体的な劣化で、いつの間にか消滅してしまうおそれがある。園芸目的で採取されることもある。

【保全上の留意点】

出現頻度の低い植物であるため、効果的な保全対策は立てにくい。山地の自然林や自然度の高い二次林を全体的に保全することが必要である。

【特記事項】

ギンランに比べ、植物体が大きく、苞が長い。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.241. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅲp.30, 平草本 I p.207, 平新版 1 p.189.